

「モノ認識」と「モバイル」を中心に IoTで世界を変える

IoT × **AsReader**®  Digital Transformation

- 第18回定時株主総会 -

株式会社 アスタリスク

証券コード：6522

2024年11月25日



監査報告書	
連結計算書類に係る会計監査人の監査報告書	
独立監査人の監査報告書	
株式会社アスタリスク 取締役会 御中	2024年10月17日
海南監査法人 大阪事務所 指定社員 公認会計士 坂東 和宏 業務執行社員 指定社員 公認会計士 中須賀 高典 業務執行社員	
監査意見	
当監査法人は、会社法第444条第4項の規定に基づき、株式会社アスタリスクの2023年9月1日から2024年8月31日までの連結会計年度の連結計算書類、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書及び連結注記表について監査を行った。	
当監査法人は、上記の連結計算書類が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社アスタリスク及び連結子会社からなる企業集団の当該連結計算書類に係る期間の財産及び損益の状況を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。	
監査意見の根拠	
当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「連結計算書類の監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。	
その他の記載内容	
その他の記載内容は、事業報告及びその附属明細書である。経営者の責任は、その他の記載内容を作成し開示することにある。また、監査等委員会の責任は、その他の記載内容の報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。	
当監査法人の連結計算書類に対する監査意見の対象にはその他の記載内容は含まれておらず、当監査法人はその他の記載内容に対して意見を表明するものではない。	
連結計算書類の監査における当監査法人の責任は、その他の記載内容を適正に、適度の過程において、その他の記載内容と連結計算書類又は当監査法人が監査の過程で得た知識との間に重要な相違があるかどうかを検討すること、また、そのような重要な相違以外にその他の記載内容に重要な誤りの兆候があるかどうか注意を払うことにある。	
当監査法人は、実施した作業に基づき、その他の記載内容に重要な誤りがあると判断した場合には、その事実を報告することが求められている。	
その他の記載内容に関して、当監査法人が報告すべき事項はない。	
連結計算書類に対する経営者及び監査等委員会の責任	
経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結計算書類を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結計算書類を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。	
連結計算書類を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき連結計算書類を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。	
監査等委員会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。	
連結計算書類の監査における監査人の責任	
監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての連結計算書類に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から連結計算書類に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、連結計算書類の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。	
監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。	
<ul style="list-style-type: none"> 不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。 連結計算書類の監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。 経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。 経営者が継続企業を前提として連結計算書類を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において連結計算書類の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する連結計算書類の注記事項が適切でない場合は、連結計算書類に対して除外事項付意見を表明することが求められている。 監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。 計算書類の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた連結計算書類の表示、構成及び内容、並びに連結計算書類の基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。 連結計算書類に対する意見を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する十分かつ適切な監査証拠を入手する。監査人は、連結計算書類の監査に関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査意見に対して責任を負う。 監査人は、監査等委員会に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。 監査人は、監査等委員会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去するための対応策を講じている場合又は阻害要因を許容可能な水準にまで軽減するためのセーフガードを適用している場合はその内容について報告を行う。 	
利害関係	
会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。	
以上	

会計監査人の監査報告書	
独立監査人の監査報告書	
株式会社アスタリスク 取締役会 御中	2024年10月17日
海南監査法人 大阪事務所 指定社員 公認会計士 坂東 和宏 業務執行社員 指定社員 公認会計士 中須賀 高典 業務執行社員	
監査意見	
当監査法人は、会社法第436条第2項第1号の規定に基づき、株式会社アスタリスクの2023年9月1日から2024年8月31日までの第18期事業年度の計算書類、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書及び個別注記表並びにその附属明細書（以下「計算書類等」という。）について監査を行った。当監査法人は、上記の計算書類等が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、当該計算書類等に係る期間の財産及び損益の状況を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。	
監査意見の根拠	
当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「計算書類等の監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。	
その他の記載内容	
その他の記載内容は、事業報告及びその附属明細書である。経営者の責任は、その他の記載内容を作成し開示することにある。また、監査等委員会の責任は、その他の記載内容の報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。	
当監査法人の計算書類等に対する監査意見の対象にはその他の記載内容は含まれておらず、当監査法人はその他の記載内容に対して意見を表明するものではない。	
計算書類等の監査における当監査法人の責任は、その他の記載内容を適正に、適度の過程において、その他の記載内容と計算書類等又は当監査法人が監査の過程で得た知識との間に重要な相違があるかどうかを検討すること、また、そのような重要な相違以外にその他の記載内容に重要な誤りの兆候があるかどうか注意を払うことにある。	
当監査法人は、実施した作業に基づき、その他の記載内容に重要な誤りがあると判断した場合には、その事実を報告することが求められている。	
その他の記載内容に関して、当監査法人が報告すべき事項はない。	
計算書類等に対する経営者及び監査等委員会の責任	
経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して計算書類等を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない計算書類等を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。	
計算書類等を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき計算書類等を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。	
監査等委員会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。	
計算書類等の監査における監査人の責任	
監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての計算書類等に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から計算書類等に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、計算書類等の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。	
監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。	
<ul style="list-style-type: none"> 不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。 計算書類等の監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。 経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。 経営者が継続企業を前提として計算書類等を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において計算書類等の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する計算書類等の注記事項が適切でない場合は、計算書類等に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。 計算書類の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた計算書類等の表示、構成及び内容、並びに計算書類等が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。 監査人は、監査等委員会に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。 監査人は、監査等委員会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去するための対応策を講じている場合又は阻害要因を許容可能な水準にまで軽減するためのセーフガードを適用している場合はその内容について報告を行う。 	
利害関係	
会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。	
以上	

監査等委員会の監査報告書	
第18期 監査等委員会監査報告書	
当監査等委員会は、2023年9月1日から2024年8月31日までの第18期事業年度の取締役の職務の執行の監査を行いました。その方法及び結果について、以下の通り報告いたします。	
1. 監査の方法及びその内容	
監査等委員会は、会社法第399条の13第1項第1号口及びハに掲げる事項に関する取締役会決議の内容並びに当該決議に基づき整備されている体制(内部統制システム)について取締役及び使用人等からその構築及び運用の状況について定期的に報告を受け、必要に応じて説明を求め、意見を表明するとともに、下記の方法で監査を実施いたしました。	
1. 監査等委員会が定めた監査基準に従い、取締役会その他重要な会議に出席し、取締役及び使用人からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決裁書類等を閲覧し、本社兼研究所、AsReader Baseおよび東京事業所において業務及び財産の状況を調査致しました。また、取締役の職務の執行が法令、定款に適合することを確保するための体制その他株式会社としての業務の適正を確保するために必要なものとして会社法第399条の13第1項第1号口及びハに定められた事項に関する取締役会の決議並びに整備、運用状況について、取締役及び使用人等から定期的に報告を受け、必要に応じて説明を求め、意見を表明しました。子会社については、子会社の取締役等と意思疎通及び情報の交換を図り、必要に応じて子会社から事業の報告を受けました。	
2. 会計監査人が独立の立場を保持し、かつ、適正な監査を実施しているかを監視及び検証するとともに、会計監査人からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求めました。また、会計監査人から「職務の遂行が適正に行われていることを確保するための体制」(会社計算規則第131条各号に掲げる事項を「監査に関する品質管理基準」(企業会計審議会)等によって整備している旨の通知を受け、必要に応じて説明を求めました。	
以上の方法に基づき、当該事業年度に係る事業報告及びその附属明細書、計算書類(貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書及び個別注記表)及び、その附属明細書並びに連結計算書類(連結貸借対照表、連結損益計算書、連結株主資本等変動計算書及び連結注記表)について検討いたしました。	
2. 監査の結果	
1. 事業報告等の監査結果	
1) 事業報告及びその附属明細書は、法令及び定款に従い、会社の状況を正しく示しているものと認めます。	
2) 取締役の職務の執行に関する不正の行為又は法令もしくは定款に違反する重大な事実は認められません。	
3) 内部統制システムに関する取締役会決議の内容は相当であると認めます。また内部統制システムに関する事業報告の記載内容及び取締役会の職務の執行についても、指摘すべき事項は認められません。	
2. 計算書類及びその附属明細書の監査結果	
会計監査・海南監査人の監査の方法及び結果は相当であると認めます。	
3. 連結計算書類の監査結果	
会計監査・海南監査人の監査の方法及び結果は相当であると認めます。	
2024年10月17日	株式会社アスタリスク監査等委員会
	常勤取締役監査等委員 石田 泰 一 ㊟
	取締役監査等委員 岩 崎 文 夫 ㊟
	取締役監査等委員 山 元 教 有 ㊟
(注) 監査等委員岩崎文夫、監査等委員山元教有は、会社法第2条第15号及び第331条第6項に定める社外取締役であります。	

「モノ認識」と「モバイル」を中心に IoTで世界を変える

IoT × **AsReader**  Digital Transformation

第18回定時株主総会 事業報告資料

株式会社 アスタリスク

証券コード：6522

2024年11月25日



1. 2024年8月期 事業の概況

- (1) 連結業績
- (2) セグメント別業績
- (3) 地域別業績
- (4) 個別業績
- (5) その他の事項

2. 企業集団が対処すべき課題



Ⅰ. 2024年8月期 事業の概況



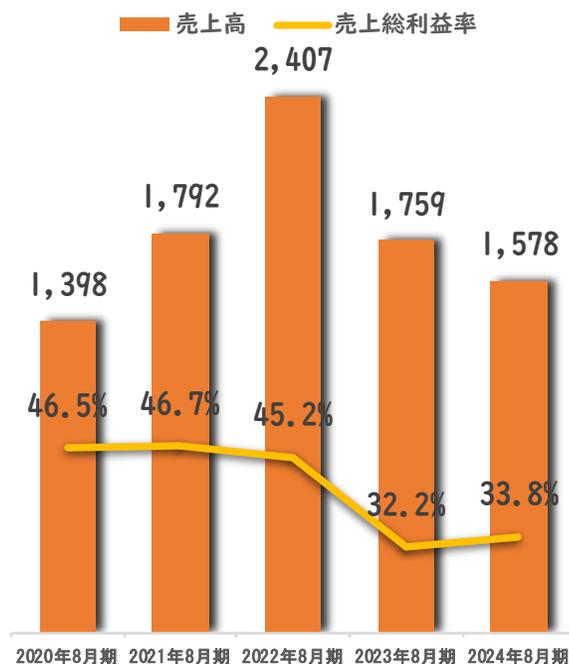
(1) 連結業績



【連結財務ハイライト】

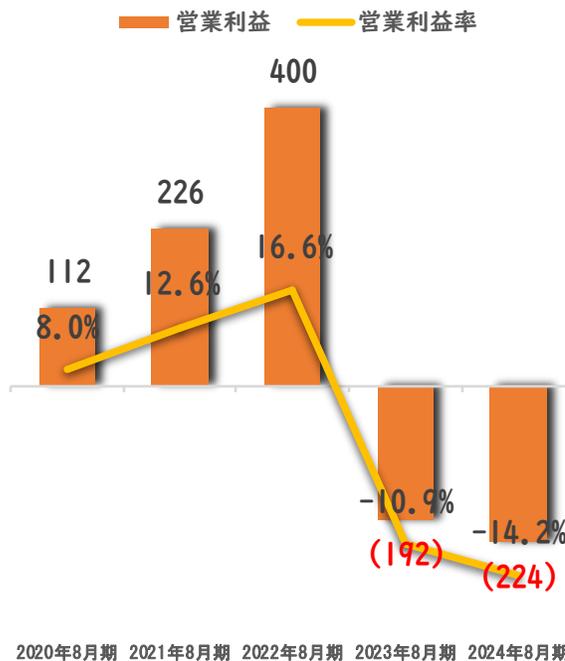
■ 売上高・売上総利益率

(単位：百万円)



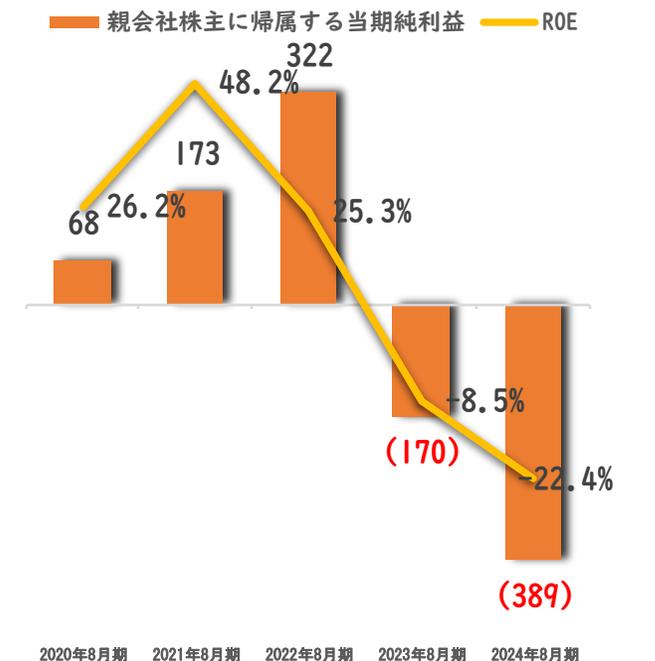
■ 営業利益・営業利益率

(単位：百万円)



■ 親会社株主に帰属する利益・ROE

(単位：百万円)

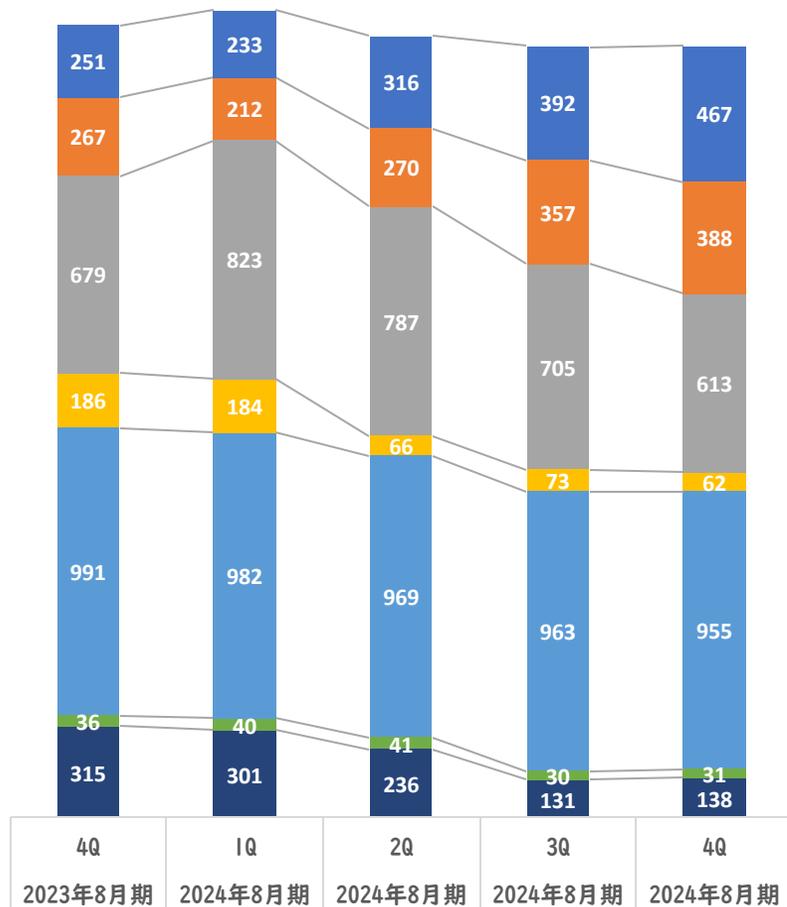


- 前期比 売上高 10.3%の減収 営業利益▲224百万円の減益（前期は▲192百万円）
- 売上総利益率は為替相場（円安）の影響等があったものの、売上総利益率の良い製品の販売があり1.6%の改善
- 営業利益率は▲14.2%と前期▲10.9%から3.3%の悪化

【連結貸借対照表】

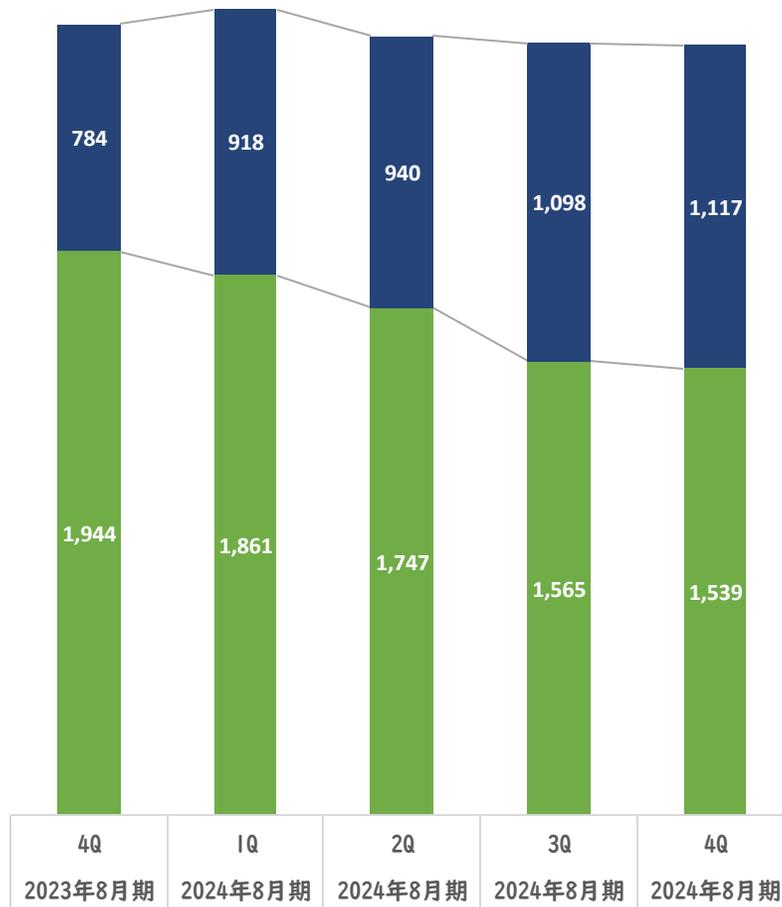
①資産

(百万円)



②負債及び純資産

(百万円)



【前期比較情報】

【資産関係】

2,657百万円 (62百万円減少)

- ①現金及び預金 215百万円増加
- ②売上債権 121百万円増加
- ③投資有価証券 103百万円減少
- ④商品及び製品 71百万円減少

【負債関係】

1,117百万円 (333百万円増加)

- ①短期借入金 205百万円増加
- ②長期借入金 70百万円増加

【純資産関係】

1,539百万円 (395百万円減少)

- ・利益剰余金 389百万円減少

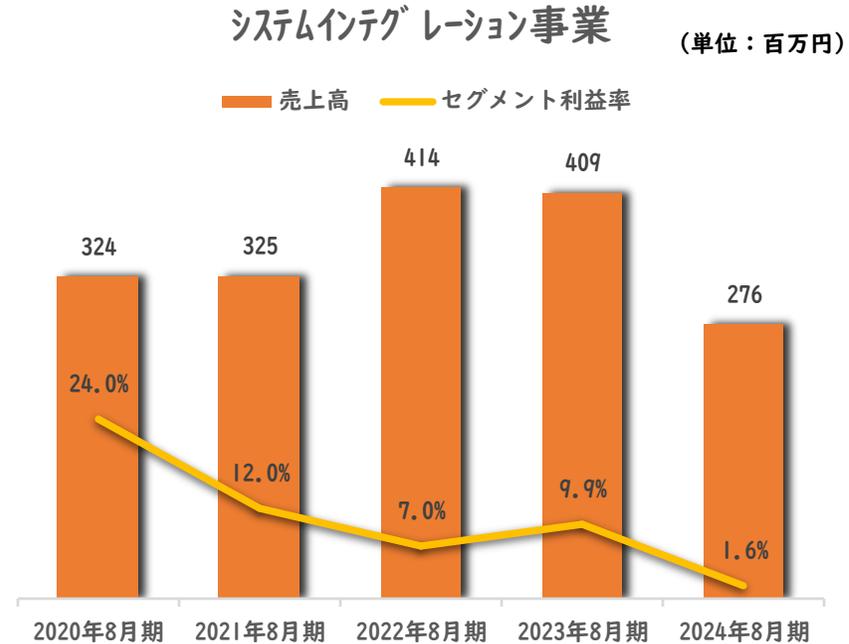
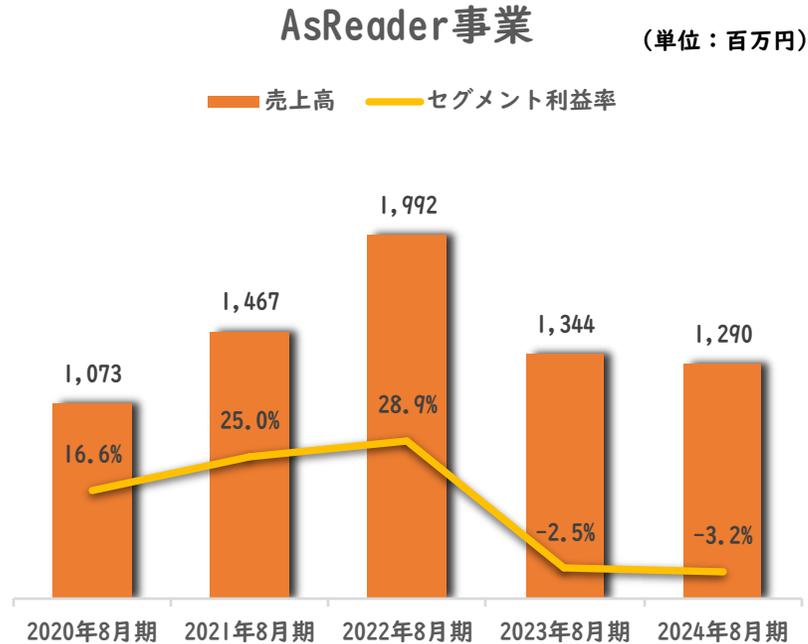
■ 投資その他の資産 ■ 無形固定資産 ■ 有形固定資産
 ■ その他流動資産 ■ 棚卸資産 ■ 売上債権及び契約資産
 ■ 現金及び預金

■ 純資産 ■ 負債

(2) セグメント別業績



【セグメント別業績】



■AsReader事業

2024年8月期は国内、海外共に前年同期比で減少する結果となりました。いくつかの新規大口案件の商談が進展していたものの、2024年8月期中の納品まで進めることは叶わず、売上高は減少、利益率も悪化の結果となりました。

■システムインテグレーション事業

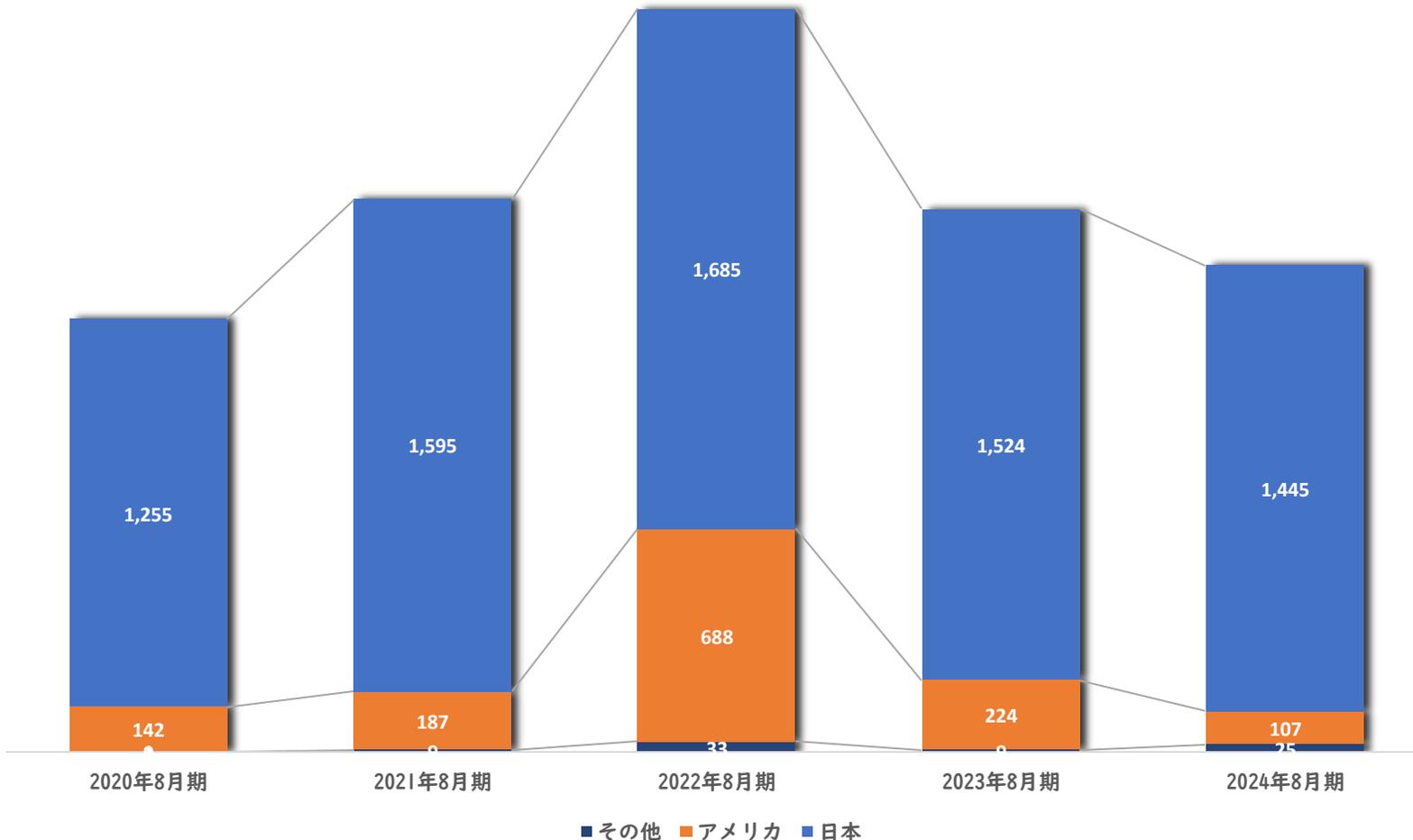
2024年8月期は売上高が減収となり、売上原価に含まれる固定費の比率が高まった結果、利益率も悪化の結果となりました。

(3) 地域別業績



【地域別売上高】

(単位：百万円)



■ 日本

小売業界、輸送業界、物流業界、医療業界への販売及び自動販売機業界向けの納品が進みましたが、前年の水準には及ばず、前年同期比▲5.2%の減少となりました。

■ アメリカ

飲料メーカーへの追加納入があった反面、いくつかの新規大口案件の商談が進展していたものの、2024年8月期中の納品まで進めることが叶わず、前年同期比▲52.2%となりました。

■ その他

中国での販売になります。

(注) アメリカ、中国の売上は決算月のズレの影響で7月から翌年6月までの実績で連結財務諸表を作成しております。

(4) 個別業績



・ <https://www.asx.co.jp/ir/> に掲載しております
第18回定時株主総会招集ご通知 41頁から43頁をご参照ください。

損益計算書

(2023年9月1日から
2024年8月31日まで)

(単位：千円)

科目	金額	金額
売上高	1,560,065	
売上原価		991,184
売上総利益	568,881	
営業外費用		30,746
営業利益	538,135	
経常利益	221,486	
特別損失		530
当期純利益	221,486	
法人税等調整額		70,338
当期純損	396,294	

(注) 金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

貸借対照表

(2024年8月31日現在)

(単位：千円)

資産の部	金額	負債の部	金額
流動資産	1,247,346	流動負債	935,774
現金及び預金	299,761	買掛金	64,694
売掛金及び契約資産	368,196	短期借入金	665,000
商品及び製品	530,039	1年内返済予定の長期借入金	21,658
原材料及び貯蔵品	39,049	未払金	57,624
前払費用	4,062	未払費用	3,878
未取還付法人税等	2,593	未払法人税等	11,133
その他の当座預金	8,180	預り金	1,649
貸倒引当金	△4,538	契約負債	33,632
固定資産	1,242,407	賞与引当金	25,088
有形固定資産	926,535	製品保証引当金	3,751
建物	484,953	受注損失引当金	6,770
建物減価償却累計額	△16,165	その他	40,893
建物附属設備	148,379	固定負債	72,289
建物附属設備減価償却累計額	△18,938	長期借入金	70,012
構築物	18,101	資産除去債務	1,543
構築物減価償却累計額	△1,680	繰延税金負債	734
車両運搬具	641	負債の部合計	1,008,064
車両運搬具減価償却累計額	△641		
工具器具備品	205,703	純資産の部	
工具器具備品減価償却累計額	△186,408	科目	金額
土地	292,589	株主資本	1,481,688
無形固定資産	39,487	資本剰余金	806,087
ソフトウェア	39,487	資本準備金	796,087
投資その他の資産	276,383	利益剰余金	△120,441
投資有価証券	101,250	その他利益剰余金	△120,441
出資	1	繰越利益剰余金	△120,441
関係会社株式	4,830	自己株式	△44
長期前払費用	12,602	純資産の部合計	1,481,688
関係会社長期貸付金	442,489	負債及び純資産合計	2,489,753
その他	12,874		
貸倒引当金	△297,663		
資産の部合計	2,489,753		

(注) 金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

株主資本等変動計算書

(2023年9月1日から
2024年8月31日まで)

(単位：千円)

	株主資本					自己株式	株主資本合計	純資産合計
	資本金	資本準備金	資本剰余金合計	利益剰余金	利益剰余金合計			
当期首残高	804,937	794,937	794,937	275,852	275,852	-	1,875,727	1,875,727
当期変動額								
新株の発行	1,150	1,150	1,150				2,300	2,300
当期純損失				△396,294	△396,294		△396,294	△396,294
自己株式の取得						△44	△44	△44
当期変動額合計	1,150	1,150	1,150	△396,294	△396,294	△44	△394,039	△394,039
当期末残高	806,087	796,087	796,087	△120,441	△120,441	△44	1,481,688	1,481,688

(注) 金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

(5) その他の事項

【株価推移】



・2024年8月期の株価推移を掲載しております。

・期間中の最高株価と最低株価は次のとおりです。
 最高株価 911円
 最低株価 400円

・更なるチャレンジを実施、長期にわたった業績を意識した経営を行い、市場から適正な評価をいただけるように活動を実施してまいります。

当社の進む道

経営理念:

ITを通じて三方笑顔を創造し、
人類社会の進歩発展に貢献します

アスタリスクのキーワード

「モノ認識」「モバイル」

→ 人に代わる自動化に寄与

スマホによる 現場DX

対投資効果を最大にする

機能別の業務端末



機器が個別にあるため
無駄な動線が多い

現場の業務を



スマホに集約

店内インカム、チャット、勤怠管理、
入在庫管理もこれ一台!

そして
さらなる高みへ!!



スマホ性能がPoint!

CPU | コスト | OS | 保守 | 将来性 | 流通性
 |  |  |  |  | 

ベンチマークテスト(処理性能)などの
確認を推奨します。 **ハンディよりスマホがおすすめ!**



2024年8月期に発表した製品報告
(抜粋)

【製品発表】 iOS、Androidどちらも有線で利用可能！

スマートフォンに装着するバーコードリーダー「AsReader ASR-M24D」発表



ASR-M24Dは、Android端末専用の高性能バーコードリーダー「ASR-A24D」をさらに改良した製品であり、AndroidOSだけでなくiOSでもUSB Type-Cで接続して利用することができることが特徴となっております。もちろんApple社が定めている性能基準を満たした製品に与えられる認証プログラムの「MFi認証」を取得していますので、安心してご利用いただけます。

スマートフォンと接続するUSB Type-Cコネクタにより、装着からアプリ起動、読み取り、データ転送が簡単かつ迅速に行えます。

バーコードを検出すると自動的に投光が発光して読み取りをおこなうプレゼンテーションモードにも対応。国内外の主要な一次元バーコードに加え、QRコードやPDF417などの二次元コードも読み取りが可能です。

【製品発表】超薄型で軽量のバーコードリーダー 「AsReader SLIM」

AsReader SLIMはバーコード、2次元コードの主要なバーコードに対応し、スマートフォン装着からアプリ起動、読み取りまで簡単に素早く操作可能です。

主な特徴は次の3点になります。

- ①USB-Cコネクタでスマートフォンと有線接続
- ②コンパクトで超軽量
- ③操作性が良い



【製品発表】ソフトウェアデコーダー

スマートフォンのカメラでバーコードを読み取る

「AsReader CameraX」を発表



2023年10月から高速読取に特化したAndroidスマートフォン用の新エンジンとして、AsReader CameraXのSDKを試用提供しておりましたが、非常に評価が高いことからバーコード読み取り用ソフトウェアのハイエンドモデルとして一般販売を開始することといたしました。

AsReader CameraXは、高い処理速度と優れた読み取り精度を備え、物流をはじめ、大量のデータを扱う業界・ビジネス分野において、バーコード管理に関する作業効率を向上させることができると考えております。

【製品発表】賞味期限管理アプリ Sdc0 (Simple date check OCR)

OCRとバーコードを活用した期限管理アプリ「Sdc0 (エスデコ)」の発売を発表します。Sdc0 (エスデコ) を導入することで、現場作業の負担を軽減すると同時に、賞味期限などの期限を適正に管理し、SDGs 目標12.3に掲げられている食品ロスの削減に繋がることが期待されます。

■Sdc0 (エスデコ) とは

「Sdc0 (エスデコ)」は商品に記載された賞味期限をOCRで読み取ることが出来ます。登録された直近の賞味期限を元に、システム内で商品の撤去開始日を算出し、撤去することで作業の正確性と効率を上げるものです。賞味期限ではなく、製造年月日のみが記載された商品の場合は、製造年月日から撤去開始日を計算することも可能です。



【製品発表】顔認証端末「AsReader GoMA Professional」の販売を開始

カメラに顔を映すだけで、本人であることを認証する顔認証システムはiPhoneの「Face ID」で一般的に普及し始め、マンションの入り口や勤怠管理、イベントの入場などで活用されており、その利便性と効率性から、今後もさらに普及が進むと考えられます。

ただ、コストの問題やカメラの性能の問題などハードルが高く、簡単に導入できないという問題がありました。

AsReader GoMA Professionalは、顔認証専用エッジデバイスです。アスタリスクの顔認証技術AsReader Oneを採用し、設置するだけですぐ顔認証の技術をご利用いただけます。他サービスとの連携も可能で、勤怠管理や会員カードの本人認証を顔で実施することが可能です。

【製品発表】As Key Cube、鍵管理ソフトウェアの発表

「As Key Cube」は、アスタリスクが提供する人物特定、認証のクラウドサービスである「AsReader One」で培った顔認証技術と、当社が2024年1月9日発表いたしましたRFIDリーダーライターの製品「キューブタイプ」を活用した、電波の漏れを防ぎつつ筐体内のRFタグを読み取る特殊筐体「AsCube」を用いて、鍵を持ち出した人を認識、特定したうえで、鍵に付いたRFタグを一括して読み取ることによって、鍵束単位での持ち出し情報を管理するシステムです。

これにより、鍵の不正持ち出しを防ぎ、鍵束の利用状況の管理、履歴確認も可能になります。

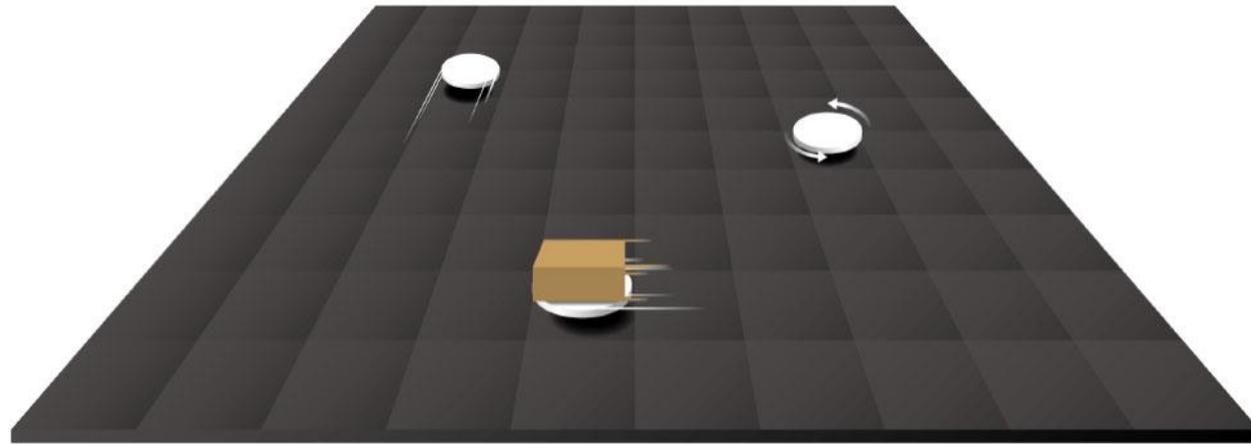


【製品発表】 デジタルショーケース、3Dでの表現に！

アスタリスクは様々な業界のDX化を推進する中で、流通、小売業などにおいて、大量に取り扱う商品の効率的な管理と展示方法の改善が急務と考えておりました。そのため、従来の方法にとらわれず、革新的で新しい見せ方を取り入れることで、より効果的な商品アピールと顧客体験の向上を目指すことにしました。この新しい展示手法の導入により、商品をより魅力的に見せることが可能となり、来店機会の増加と売上拡大に繋がると期待しています。



【製品発表】リニアモーター技術を活用した搬送ロボットシステム 「AsReader HAKOBU」を発表



AsReader HAKOBU

HAKOBUはリニアモーター技術を使った縦横に加えて回転運動をすることができる搬送ロボットシステムです。基本的な搬送ロボットシステムは、リニアモーターを備えたパネル状の「基盤部」と、荷物などの物品を搬送するための「トレー部」とで構成され、トレー部はバッテリーなどの電力が不必要であり充電などすることなしに連続運用し続けることができるのが特徴です。また、それぞれのトレー部が自由に移動することができ運用に応じた自由な搬送空間をつくることができ、これらの技術により物流や生産現場での物品の搬送や、飲食店の配膳など、様々な現場での自動化／省人化に向けたアプローチを提案してまいります。

2024年8月期に発表した当社導入事例報告
(抜粋)

【導入事例】ブックオフコーポレーション「AsReader」を導入

〔在庫管理〕ハンディターミナルからiPhoneへ刷新することで業務効率大幅UP！

「多くの人に楽しく豊かな生活を提供する」をミッションとするブックオフグループの中核として、本やCD、DVD、ゲームソフトなどのリユース事業を手掛けるブックオフコーポレーション様。

近年ではアパレルやトレーディングカード・ホビーなどその裾野を広げ、サステナビリティな循環型社会への貢献を目指していらっしゃいます。

大量の商品を扱うビジネス故に、在庫管理のスマート化は重要課題。

今回のリプレイスにあたり、それまでのハンディを使った管理から、「iOS」を使ったマルチデバイス管理へと舵を切り、iPhoneの機能を活用した店舗業務や、弊社AsReaderと接続しての棚卸しなど、業務効率の大幅な改善に成功されました。



【導入事例】 武蔵野ロジスティクス 「As Key Cube」を導入

「物流を通じて健康でゆとりある社会の実現に貢献する」をモットーに、物流倉庫の管理・受託、食品配送、大手コンビニチェーンへの配送を軸に、引っ越し、バス送迎、トラック整備など多彩な事業を展開している武蔵野ロジスティクス様。

このたび、食品配送業務において、お客様からお預かりしたカギの持ち出しから返却までの管理に、当社のRFID技術を活用したAs Key Cubeシステムをご採用いただき、ペーパーレス化や工数削減を実現、長年の課題を解決され、業務改善につなげていらっしゃいます。



【導入事例】全日本食品株式会社にAsReader「ASR-A24D」を導入 [発注・在庫管理] 店舗の発注業務・在庫管理業務の効率化実現へ



全日本食品株式会社様は、全国約1,600店の地域のスーパー、個人商店が加盟するボランティアチェーン「全日食チェーン」を運営しており、加盟店様への商品供給や経営・売り場指導、FSPなどのさまざまなサービスや情報を提供し、地域のお店をサポートされています。

この度、店舗の発注業務・在庫管理業務の効率化を目的に「AsReader DOCK-Type ASR-A24D」をご導入いただきました。

【導入事例】 アルペン、総合スポーツショップ店舗の在庫管理

総合スポーツショップ、アウトドア専門店、ゴルフ専門店を北海道から沖縄まで約400店舗展開し、最近ではAlpen TOKYO・Alpen FUKUOKAなどの旗艦店も出店されている株式会社アルペン様に導入いただきました。

スマートフォンにリーダーモジュールを合体させたDOCK-Typeに加え、スマホのカメラを使ってバーコードを読み取るCAMERA-Typeを併用され、業務内容に合わせた適材適所なリーダー活用で業務改善に繋げておられます。また現場スタッフの声を生かした柔軟なスマートフォン活用を行うことで、今まで以上に働きやすい職場環境の実現と顧客満足度の向上を目指しておられます。



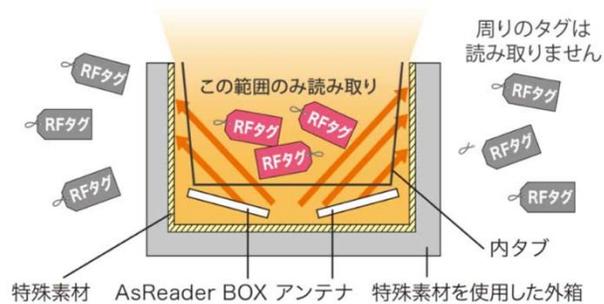
【導入事例】無人アパレル店舗に「RFID Reading Tub」を導入。 RFIDセルフレジを実現！

電波の漏れを防ぐ特殊筐体にRFIDアンテナを内蔵した「Reading Tub」が、株式会社RESTA様が運営する無人アパレルショップ「#古着de行こか。」に導入されました。

RESTA様は、無人販売店での使用に特化したセルフPOSレジシステムの開発販売を行うとともに、無人のアパレルショップ「#古着de行こか。」の運営も行っています。

今回、その無人店舗でのRFIDでのセルフレジ実現のため、アスタリスクが開発した「RFID Reading Tub」を購入商品の読み取りとしてご導入いただきました。

RFIDアンテナと、電波が遮断されるイメージ図



二重の特殊素材によりRFID電波を閉じ込めているので、タブ内部のみを読み取ります。



【導入事例】中河内救命救急センター「AsReader」を導入

時間との戦いとも言える緊急度の高い現場で、ミスなく迅速な医療行為を行うため、院内では患者、医療従事者、投与する輸血や輸液を紐づける「三点認証」が徹底されています。

この度、従来はバーコードで行われていた「三点認証」に、RFタグのついた患者認証用RFIDリストバンド「E-ブレス® (※1)」を導入し、AsReader ASR-0230Dで読み取ることで、より確実にスピーディな医療につながっていらっしゃいます。

※1：E-ブレスはホクユーメディックス株式会社の特許製品、および登録商標です。



【事例紹介（自社）】

「こがね製麺 草津栗東店」にて 「完全なる手ぶら決済」

セルフチェックアウトシステムを2023年12月から運用開始



専用のアプリケーションに事前に顔を登録いただくことで、顔認証でクーポンやスタンプの利用ができる機能だけでなく、クレジット決済まで完了できる機能も実装しました。

これにより、こがね製麺 草津栗東店は商品の注文からクーポンやスタンプカードの利用、決済までをセルフで完了する「セルフオーダー&セルフチェックアウト方式」で運用する次世代飲食店舗となり、開業目的であった、当社が提唱するスマートショップ構想の実証店舗として本格運用を開始することとなります。

2024年8月期に発表した展示会報告
(抜粋)

【開催報告】 満員御礼！

「AsReader Conference2024」を開催いたしました！

2024年5月24日(金)、日経ホールにて「スマートフォンを活用した現場DXの推進」をテーマにした、アスタリスク最大のプライベートセミナー「AsReader Conference 2024」（以下「AC2024」）を開催しました。

業務へのスマートフォン活用の可能性や、実際の導入企業様のスマートフォン活用例のご紹介。

RFIDの技術をより詳しく知っていただくためにパートナー企業様にご協力いただき、RFIDの活用事例のご紹介。

AC2024開催と同日に発表した各種製品の説明の他、アスタリスクが現在開発を進めている顔認証技術の可能性や、ロボット開発についてご説明をしました。

その他、海外で活躍するメンバーの紹介やAsReaderの製品開発に関する姿勢やこだわりを発表させていただきました。



【展示会出展】 国際物流総合展 INNOVATION EXPO

国際物流総合展 INNOVATION EXPOとは、ロジスティクス・物流に関わるあらゆる技術、知識、情報を集約、フル活用し、経営の変革を促進することを目的に開催される展示会です。

アスタリスクは今回も『「モノ認識」と「モバイル」でスマート物流』をテーマに、AsReaderで実現する物流現場の業務改革を6小間ブースいっぱいに表示しました。



【展示会出展】スマート物流 EXPO

スマート物流 EXPOとは、スマート物流を実現するためのIoT・ITシステム、AI、ロボット、物流設備などを扱う出展社と自動化・省人化・デジタル化を目指す展示会で、アスタリスクは初出展です。アスタリスクは『「モノ認識」と「モバイル」でスマート物流』をテーマに、AsReaderで実現する物流現場の業務改革を6小間ブースをフルに活用して提案・展示しました。



【展示会出展】「リテールテックJAPAN2024」

リテールテックJAPANは、流通業のサプライチェーンとマーケティングを進化させる、最新のIT機器・システムを紹介する日本最大の専門展です。

今までに引き続いて、アスタリスクが特に力を入れている展示会で、今回は昨年オープンした「こがね製麺」のご紹介もしたく、昨年より2小間多い、8小間での出展でした。

多くの来場者の方にお立ち寄りいただけるように広い間口でブースの通路側ではAsReaderとそれを活用したソリューションを展示。ストッパーとして多くの方に認知されているCAMERA-Typeでの高速読取。さらに通路から見た奥側には大型のLEDビジョンを使うと同時に、現在のこがね製麺の技術と次のステップを展示し、「現在の技術力」と「将来の希望」を表現してみました。



【展示会出展】 国際モダンホスピタルショー2024

『病院をはじめ、保健・医療・福祉分野における質の向上、充実に役立つ機器、製品、システム、サービスなどを幅広く展示し、最新情報の発信および情報交流の場を提供することにより、健康福祉社会の発展に寄与する。』ことを目的とした展示会です。



【展示会出展】全米小売業協会「NRF2024:Retail's Big Show」

NRFは、小売や外食、流通に関する技術が一堂に会した展示会で、小売とITを融合したリテール業界の展示会では世界最大級のものです。世界のリーディング企業から、今後注目すべきスタートアップ企業まで、多くの展示ブースが設けられ、小売企業向けの最新テクノロジーが展示されたほか、さまざまなセッションが催され、大盛況のうちに開催されました。

ブースではリテール向けに、当社ブランド「AsReader」のRFID／バーコード（ハードウェア・ソフトウェア）リーダーを中心に展示しました。

今回特にご来場者様から大変ご好評だったのは、2023年12月に発表したばかりの、スマートフォンのカメラでバーコードを読み取るソフトデコーダー「AsReader CameraX」でした。アテンドスタッフからの「高速の読み取りができます！」という呼びかけに、たくさんのお客様が足を止め、その読み取り性能をご評価くださいました。



【展示会出展】ラスベガスで開催「RFID Journal LIVE! 2024」

2024年4月9日より4月11日まで、アメリカネバダ州ラスベガスで開催されたRFIDおよびその関連技術に特化した世界最大級の展示会「RFID Journal LIVE! 2024」に、当社グループのアメリカ現地法人であるAsReader, Inc.が出展しました。

この展示会に当社グループのアメリカの現地法人であるAsReader, Inc.が出展。定置型の「DESKTOP-type(ASR-P35U)」や「BOX-Type(ASR-P37U)」といった、今年発表したRFIDリーダーライターを中心に、高所での読み取りが可能になる円偏波が特長の「PADDLE-Type(ASR-P252B)」や、PT Nextと共同で開発したRFIDリーダーとアンテナが内蔵された「スマート・ジュエリー・トレイ」、読み取り距離10m以上、直線偏波のRFIDリーダーライター「GUN-Type(ASR-L251G)」などを展示し、受容を受けて、幅広く進化するAsReaderを認知していただきました。



【展示会出展】IOTE 2024 (Shenzhen)

IOTE (International Internet of Things Expo) は、各種IoTソリューションが展示される国際見本市で、世界各国からの来場者を集めるアジア最大の見本市です。RFID分野の最新技術や、それらを搭載した製品が多数出展されます。

アスタリスクは、現地子会社「大連明日星科技有限公司」が出展。

RFID技術を使ったセルフレジが実現可能なRFID ReadingTubを中心に、バーコード、RFIDの機器やソリューションを展示しました。

大連明日星科技有限公司深圳支社のメンバーを中心に、日本からも社長の鈴木が急遽、応援に入りました。



2. 企業集団が対処すべき課題



- ・ <https://www.asx.co.jp/ir/> に掲載しております
第18回定時株主総会招集ご通知 18頁から21頁に記載のとおりであります。
- ・ 様々な課題や取り組むべき事項がございますが、対策・施策を講じ、
更なる事業の拡大や新しい付加価値の創出を図ってまいります。

第18回定時株主総会

2024年11月25日

「モノ認識」と「モバイル」を中心にIoTで世界を変える

IoT × **AsReader**  Digital Transformation

株式会社アスタリスク

決議事項



【第1号議案】取締役（監査等委員であるものを除く。）5名選任の件

取締役（監査等委員であるものを除く。）全員（4名）は、本総会終結の時をもって任期満了となりますので、取締役（監査等委員であるものを除く。）1名を増員し、取締役（監査等委員であるものを除く。）5名の選任をお願いするものであります。

取締役（監査等委員であるものを除く。）候補者は、次のとおりであります。

なお、本議案に関しましては、当社の監査等委員会は、全ての取締役（監査等委員である取締役を除く。）候補者について適任であると判断しております。

候補者番号	氏名	現在の当社における地位及び担当	取締役会出席率	候補者の属性
1	すずき のりゆき 鈴木 規之	代表取締役執行役員社長	100% (35回中35回)	<input type="checkbox"/> 再任
2	かとう えいたろう 加藤 栄多郎	取締役執行役員事業部長	100% (35回中35回)	<input type="checkbox"/> 再任
3	やまもと かずや 山本 和矢	取締役執行役員管理統括室長	100% (35回中35回)	<input type="checkbox"/> 再任
4	なか がわ ようすけ 中川 陽介	執行役員技術室長	-% (-回中-回)	<input type="checkbox"/> 新任
5	つじもと きよし 辻本 希世士	社外取締役	100% (35回中35回)	<input type="checkbox"/> 再任 <input checked="" type="checkbox"/> 社外 <input type="checkbox"/> 独立役員

【第2号議案】監査等委員である取締役3名選任の件

監査等委員である取締役全員（3名）は、本総会終結の時をもって任期満了となりますので、監査等委員である取締役3名の再任をお願いするものであります。

監査等委員である取締役候補者は、次のとおりであります。

候補者番号	氏名	現在の当社における地位	取締役会出席率	監査等委員会出席率	候補者の属性
1	いし だ やす かず 石 田 泰 一	取締役 (常勤監査等委員)	100% (35回中35回)	100% (16回中16回)	再任
2	いわ さき ふみ お夫 岩 崎 文 夫	社外取締役 (監査等委員)	100% (35回中35回)	100% (16回中16回)	再任 社外 独立役員
3	やま もと のり なり有 山 元 教 有	社外取締役 (監査等委員)	100% (35回中35回)	100% (16回中16回)	再任 社外 独立役員

第18回定時株主総会

2024年11月25日

「モノ認識」と「モバイル」を中心にIoTで世界を変える

IoT × **AsReader**  Digital Transformation

株式会社アスタリスク